

殺菌剤

協友

トリフミン[®]水和剤

トリフルミゾール…………… 30.0%

種類名／トリフルミゾール水和剤
 農林水産省登録／第23498号
 毒性／普通物*
 有効年限／4年
 包装／100g×100、500g×20

特 長

- 予防効果と治療効果に優れ、病斑の拡大や孢子形成を阻止します。
- 浸透性に優れるので、散布後に降雨があっても効果にほとんど影響はありません。
- 作物に対して汚れが少ない薬剤です。
- 作物に対する安全性が高い薬剤です。
- 有用昆虫に対する安全性が高い薬剤です。

適用病害と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
りんご	斑点落葉病 黒星病 うどんこ病 赤星病	2000～ 3000倍	200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回	散布
	なし					
かき		うどんこ病				
	黒点病	2000倍				
ぶどう	うどんこ病	2000～ 3000倍		収穫7日前 まで		
	黒とう病 褐斑病	2000倍		収穫前日 まで		
もも	灰星病 黒星病	1000～ 1500倍				
	うどんこ病	1500～ 2000倍				
すもも		1000倍		収穫14日前 まで	2回	
おうとう	灰星病	1000～ 1500倍			3回	
うめ	黒星病	2000倍				
いちじく	株枯病	500倍	1～10 ℓ/株	収穫前日 まで	本剤 4回 トリフルミゾール剤 7回 〔散布は3回、 灌注は4回〕	灌注
	さび病 そうか病	2000倍	200～700 ℓ/10a			
マルメロ	収穫14日前 まで			3回		
かりん	赤星病				収穫前日 まで	

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法				
あけび (果実)	うどんこ病	2000倍	200～700 ℓ/10a	収穫3日前 まで	3回	散布				
マンゴー				収穫7日前 まで						
稲	ごま葉枯病 いもち病 ばか苗病	30倍	—	浸種前	1回	10分間 種子浸漬				
		300倍				24～48時間 種子浸漬				
		乾燥粉重量 の0.5%	乾燥種粉 1kg当り 30mℓ			種子粉衣 (湿粉衣)				
		7.5～15倍				種子吹き付け 処理(種子 消毒機使用)				
麦 類	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 網斑病	種子重量の 0.5%	—	は種前	本剤 1回 トリフルミゾール剤 3回 【種子粉衣は1回】	種子粉衣				
	うどんこ病 赤かび病	1000～ 2000倍	60～150 ℓ/10a	収穫14日前 まで	本剤 3回 トリフルミゾール剤 3回 【種子粉衣は1回】	散布				
とうもろこし (子実)	すす紋病	2000～ 4000倍	収穫30日前 まで	3回						
未成熟 とうもろこし			収穫7日前 まで							
いちご	じゃのめ病 輪斑病	3000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	5回	散布				
	うどんこ病	3000～ 5000倍								
メロン	陥没病 つる枯病	3000倍								
	つる枯病									
すいか	うどんこ病	3000～ 5000倍								
	うどんこ病 黒星病									
きゅうり	うどんこ病	3000倍								
	つる枯病									
かぼちゃ	うどんこ病	3000～ 5000倍							本剤 5回 トリフルミゾール剤 5回 【種子粉衣は1回】	
	フザリウム立枯病	種子重量の 0.3%					—	は種前	本剤 1回 トリフルミゾール剤 5回 【種子粉衣は1回】	種子粉衣 (湿粉衣)
にがうり	うどんこ病	3000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回	散布				
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯病 炭そ病	3000～ 5000倍			5回					
	トマト ミニトマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病					3000倍			

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
なす	うどんこ病	3000～5000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	5回	散布
	すすかび病	3000倍				
しそ	さび病	5000倍		収穫開始10日前まで	3回	
セルリー	斑点病	2000倍	—	収穫前日まで	2回	
ねぎ	萎凋病	50倍	—	定植直前	1回	5～30分間 苗根部浸漬
		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊 (30×60cm、 使用土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ	定植前		苗床灌注
		200倍	セル成型育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊 (30×60cm、 使用土壌約5ℓ) 当り1ℓ			
たまねぎ	乾腐病	50倍	—	定植直前	1回	5分間 苗根部浸漬
		50～100倍	セル成型育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊 (30×60cm、 使用土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ	定植前		苗床灌注
		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊 (30×60cm、 使用土壌約5ℓ) 当り0.5～1ℓ			
オクラ	黒斑病 うどんこ病 葉すす病	5000倍	100～300ℓ/10a	—	3回	散布
かんしょ	基腐病	16倍	0.8～1.6ℓ/10a	収穫前日まで	本剤 2回 トリフルミゾール剤 3回	無人航空機 散布
		2000～3000倍	100～300ℓ/10a		[植付前の処理は1回、 植付後は2回]	散布
	つる割病	500倍	—	植付前	本剤 1回 トリフルミゾール剤 3回 [植付前の処理は1回、 植付後は2回]	17時間苗基部 浸漬
こんにゃく	乾腐病	50倍	種いも 1m ² 当り 150mℓ	—	1回	種いもの 芽基部に 散布

(つづく)

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
らっきょう	乾腐病	50倍	—	植付前	1回	5～30分間 種球浸漬	
	黒球病					5分間 種球浸漬	
アスパラガス	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	収穫7日前 まで		1回	灌注
食用ゆり	鱗茎さび症	50倍	—	植付前		種球瞬間 浸漬	
とうがらし類	うどんこ病	4000～ 5000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	5回	散布	
ごぼう		1000倍					
にんじん		3000倍		収穫14日前 まで	3回		
ふき				収穫45日前 まで			
ふき (ふきのとう)	うどんこ病 さび病	8000倍	100～300 ℓ/10a	収穫30日前 まで	1回		
パセリ	うどんこ病			収穫前日 まで	5回		
しょうが	褐色しみ病 白星病	1000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前 まで	3回		
葉しょうが	白星病			収穫14日前 まで			
にら	さび病	2000倍		収穫前日 まで			
にんにく	葉枯病						
茶	炭そ病	1500～ 2000倍	200～400 ℓ/10a	摘採14日前 まで	1回	球根粉衣	
	もち病	1000～ 1500倍					
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の 0.2%	—	植付前	1回	球根粉衣	
ばら	うどんこ病	3000～ 5000倍	100～300 ℓ/10a	発病初期	5回	散布	
きく	白さび病	1000倍					
花き類・ 観葉植物 (ばら、きく を除く)	うどんこ病	3000倍					200～700 ℓ/10a
樹木類 (しきみを除く)							60倍
しきみ		60倍	10～30 ℓ/10a				
たばこ		5000倍	25～180 ℓ/10a	収穫10日前 まで	2回	散布	

■使用上の注意

- かきの黒点病に対しては、多発時には効果が劣る場合があるので、注意してください。
- いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合は、1ヶ月間隔で使用することが望ましいです。
- りんごに使用する場合は、黒星病、赤星病およびうどんこ病の防除を主体とし、斑点落葉病に対しては落花後20日頃までの初期防除剤として使用してください。
- チューリップの球根粉衣に使用する場合は、適当な容器内で球根に本剤を均一に粉衣してから植え付けてください。
- カラーおよび花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用后14日間は入水しないでください。
- 水稻の種子消毒に使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ①種子消毒は浸種前に行ってください。
 - ②浸漬処理の場合、粉と処理薬液の容量比は1:1以上とし、種籾はサラシ網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - ③粉衣処理の場合は、付着をよくするため湿粉衣としてください。
 - ④吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥してください。
 - ⑤処理した種籾は、風乾後、水洗いせずに浸種してください。
 - ⑥消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として最初の2日間は行わないでください。その後換水する場合は静かに行ってください。
 - ⑦粉衣処理、高濃度浸漬処理(30倍)および吹き付け処理をした種子をは種する場合は、浸種終了後、浸漬液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてください。
 - ⑧軽度の初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
- 本剤を無人航空機で散布する場合は「製品情報と注意事項」の見方、「空中散布、無人航空機(無人ヘリコプター等)散布・滴下に関する注意」をご参照ください。
- 散布薬液の飛散によって自動車の塗装などに被害を与えるおそれがある等、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■混用・薬害

- なしの品種「幸水」に使用する場合は、樹勢が弱いと高濃度で葉に軽度な黄斑を生じる場合があるので、所定範囲内の低濃度で使用してください。
- なしに使用する場合は、MEP剤との混用により薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合、根域に対する処理量が著しく多いと、生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、根域に合わせて処理量や回数を調整してください。
- ウリ科作物の幼苗期には、濃緑化症状および生育抑制が生じることがあるので使用しないでください。
- スイトピーに使用する場合は、薬害が生じるおそれがあるので、開花期以降は使用をさけてください。

■毒



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

■水産動植物への注意

- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■安全使用上の注意

- 通常の使用方法では危険性は低いですが、誤飲、誤食などのないように注意してください。万一飲み込んだ場合には吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当てを受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には安静にして直ちに医師の手当てを受けてください。

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。万一眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
 - 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意してください。万一付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
-   ●使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また、薬液を吸い込んだり浴びたりしないように注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
 - 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

■貯蔵上の注意

- 密封し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2024年3月27日現在の登録内容に基づいています。